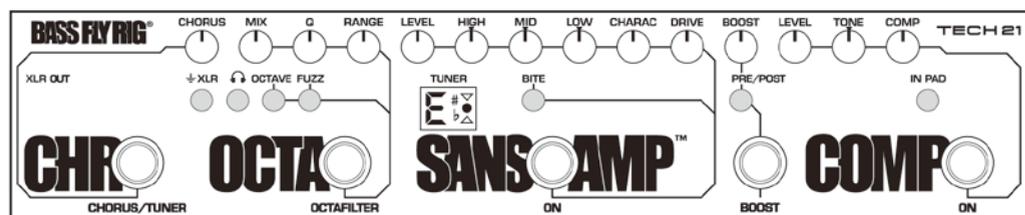




BASS FLY RIG®
TECH 21·NYC



USER GUIDE

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前にかならず内容をよくお読みください。
Fly Rig 5 はシングルペダル、ボードなしでエフェクトボード以上の機能を持ちます。長さ 30cm ほど、重量わずか 510g ほどの洗練されたコンパクトなユニットは、あらゆるエフェクトや機能を搭載しています。その中心にあるのは、オールアナログの SansAmp です。これにより、PA またはミキサーに直接入力が可能。コンプレッサー、パワフルなブースト、オクターバー、ファズ、フィルター、そしてコーラスなど、不可欠なエフェクトを搭載。断線、電池、グラウンドループの心配はありません。世界各地でライブをしたり、地元でジャムをしたり、土壇場でセッション…全てこれ一台で完璧です。

3 接続

ベースアンプとの接続：

標準のエフェクトペダルと同じように、本機をインラインで接続できます。あなたのアンプのプリアンプが多くの特徴を与えすぎているときは、低レベル入力に接続し、できるだけフラットに設定してください。ほとんどの真空管アンプではサチュレーション（飽和状態）になると、ミッドレンジがカットされる傾向があります。それで、HI と LO が最小で、MID が最大の状態で最もフラットなサウンドが達成されることがあります。

その状態は決して異常ではなく、この状態から好みに合わせて調節することをお勧めします。また、エフェクトループリターンにプラグインすることもできます（アンプにそれがある場合）。これにより、アンプのプリアンプ全体が無効になり、サウンドをより正確に表現できます。

ダイレクトにレコーディングする：

必要なトーンシェイピングとキャビネットエミュレーションはすべて、ペダルの SansAmp セクションにすでに組み込まれています。本機は、ギターを自動的にローインピーダンスに変換し、通常、ギターを直接入力するさまざまな入力に接続できます。

ミキサー（ライブおよびスタジオ）、ワークステーション/レコーダー、さらにはコンピューターのサウンドカードに直接接続することもできます。

3 入力と出力

1/4" フォン INPUT & IN PAD スイッチ：

ピエゾのフルサウンドを実現する 4.7 メガオームのインストゥルメンタルレベル。通常の信号レベルは標準のベースギターのそれに近いはずですが（およそ -10dBm / 250mV）。

アクティブベース用の In Pad スイッチは、入力を -10dB します。

注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。

1/4" フォン OUTPUT：

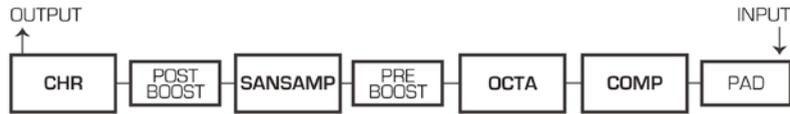
アンバランス 1kΩ ローインピーダンスインストゥルメントレベル。この出力は、ハイインピーダンスのギターアンプ（またはエフェクト）とローインピーダンスのミキサーおよびコンピューターの入力に接続できます。ペダルがバイパスモードのとき、出力レベルはユニティゲインです。また、バイパス中も長いケーブルでも信号を損なうことはありません。

BALANCED XLR OUTPUT & GROUND CONNECT スイッチ ($\frac{1}{XLR}$)：

バランスド XLR ローインピーダンスアウトプットです。GROUND CONNECT スイッチを ON にする (\uparrow) とグラウンドが接続されます。また、このスイッチを OFF にする (\downarrow) と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。

4 ご使用の前に

信号の流れ：



ユニティゲインのレベル設定：

ペダルがアクティブかバイパスかに関わらず、出音が同じ音量になるようにレベルコントロールを設定します。次のアンプやエフェクターが、通常よりもはるかに大きな信号が入力されたり、小さすぎる信号が入力されたりしないよう調節してください。

EFX セクションのクリップインジケータ：

CHR セクションの Chorus コントロールにはクリップクリップインジケータが組み込まれています。回路が過負荷になると、CHR セクションの Chorus コントロールが赤く点滅して警告します。強めのピッキング時の瞬間的な点滅（ピーク）は問題ありませんが、継続的に点灯する場合は、対応するコントロールを調節してください。

5 COMP セクション

50年代から60年代ごろのコンプレッサーを再現した、暖かく、クリアで、音楽的なコンプレッションを演出します。

COMP：

コンプレッションの量を調節します。ソフトでかろうじてわかるようなものから超コンプレッション、無限のサスティンまで幅広く調節が可能です。

TONE：

コンプレッサーは通常サウンド暗くするため、トーンコントロールでは圧縮前の2~3 kHzの高音域のブーストを行い、アタックとクリアさを維持します。低めの設定では暖かく、丸みを帯びたジャジーなトーンが演出できます。

LEVEL：

コンプ部の出力レベルを調節します。

6 BOOST セクション

PRE/POST BOOST：

フットスイッチを踏み込むことで最大10dBブーストします。

Pre-Boost ()：

SansAmp セクションと相互作用して、ドライブとディストーションを強化します。

Post-Boost ()：

全体の音量を上げてフィルとソロを持ち上げます。

7 SANSAMP セクション

レコーディングデスクやPAシステムのミキサーに直接接続し、SansAmpテクノロジーを使って強化することができます。直接録音したり、以前に録音したトラックを強化するのも使用できます。Fly Rig 5のSansAmpセクションでは、真空管アンプのクリーントーンを主にシミュレーションしています。歪みを演出するには、Drive コントロール、Character コントロールを使用するか、Octa セクションのFuzz、またはBoost セクションを使用して歪みを追加します。さらに、スピーカーシミュレーションによりキャビネットを複数のマイクでマイキングした様なスムーズなサウンドを再現します。この機能で使用するキャビネットに悪影響を及ぼすことはありません。スピーカーシミュレーションはEQ コントロールと連携して、全体的なサウンドをカスタマイズします。

DRIVE：

ゲインとオーバードライブの全体的な量を調節します。回転の前半では、音量とオーバードライブが増加し、その後はオーバードライブ量が増加します。

CHARACTER：

トーンの調節範囲全体を変更します。周波数応答を修正することに加え、アタックとドライブ特性に影響を与えます。そのため、Character コントロールを調節した後、ゲインとトーンの設定を調節する必要がある場合があります。

12時より下では、70年代ヴィンテージサウンド。

12時頃には、クラシックなスタジオトーン。

12時を超えると、モダンロック、インディーベースのサウンド。

最大で、歪んだ低音が得られます。

LOW, MID, HIGH：

スタジオミキシングボードのように、完全なEQコントロールが可能です。

カットするだけのパッシブトーンコントロールとは異なり、これらのアクティブコントロールは12時をフラットとしてカット、ブーストします。

LOWは80Hzで±12dB

MIDは1kHzで±12dB

HIGHは3.3kHzで±12dBです。

LEVEL：

SansAmp セクションがオンになっているとき、ユニットの出力レベルを調整します。

このコントロールは、さまざまな機器との最大限の互換性を保つために非常に広い範囲を備えています。

BITE スイッチ：

Bite はプレゼンスブーストとサブソニックフィルター(20Hz以下の超低音の雑音をカット)をアクティブにします。歪んだ設定になっているときはサウンドを引き締め、クリーン設定のときははっきりとしたサウンドになります。

8 OCTA セクション

OCTAFILTER:

Minimoog® スタイルのシンセからファンキーサウンドまで個性的なサウンドを演出します。コントロールは相互作用するため、フィルタリングされたクリーン、ファズ、オクターブ、さらにはオクターブファズまで演出可能です。Q が最小のとき、RANGE はハイカットフィルタになります。Mix コントロールを使って、これらのサウンドをドライ信号とブレンドすることができます。更に、COMP のパラメーターを調節することで、キーボードのベースサウンドのように無限のサスティンを得ることができます。

OCTAVE スイッチ:

モノフォニックの古典的な 80 年代のサブオクターブ効果が得られます。

FUZZ スイッチ:

ファズ効果が得られます。

RANGE:

ダイナミックフィルターの周波数範囲を調節します。楽器本体の音量と、ピッキングの強さによって調節します。最小では入力信号はフィルタされません。最大で、入力信号全体がフィルタ対象になります。信号が大きくなるにつれて効果も大きくなります。

Q:

ダイナミックフィルターの帯域の幅と鋭さを調節します。最小では、滑らかで、Range コントロールが高音域以上をわずかにロールオフするトーンコントロールのように機能します。最大では、劇的で攻撃的な変化を演出します。

MIX:

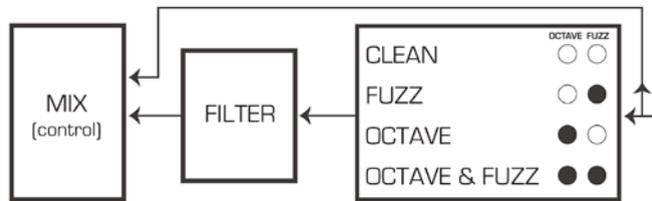
ドライ信号とエフェクト音のブレンド量を調節します。

最小 (7 時): 楽器の直接信号 (ドライ信号) のみ。

12 時: ドライ信号とエフェクト音が 50/50。

最大 (5 時): エフェクト音のみ

OCTA セクションの信号の流れ:



9 CHR セクション

CHORUS:

CHORUS は、デチューンした (数セントピッチをずらした) 音を原音に重ね、2 本のベースでプレイしているかのようなエフェクトを演出します。ノブを右に回すと効果がより深くなります。

10 その他の機能

クロマチックチューナー:



TUNER スイッチを踏み込むことでクロマチックチューナーが起動し、入力信号をミュート、チューナーウィンドウの LED が点灯します。緑色のランプが点灯している場合は、チューニングが合っています。赤い矢印が出た場合は上向き矢印 = フラットしています。ピッチを上げてください。下向き矢印 = シャープしています。ピッチを下げてください。

目的の音に近づくと、矢印は速く点滅し、チューニングが合うと消えます。

その後緑色のランプが点灯しチューニング完了です。

ヘッドフォンスイッチ (🎧):

1/4 " 出力端子がヘッドフォン用出力に替わります。音量が上がり、ヘッドフォンの左右ともに聴こえるようになります。

注意: ミキサーやアンプの入力に接続する場合は、この機能を解除してください。

10 使用上の注意

- ◆ XLR 出力を使用して PA システムのミキサーに直接入力して録音する際はベストなサウンドを得るために、SansAmp セクションを ON にしてください。
- ◆ ヘッドフォンを通して聞くとサウンドが明るく聞こえる場合があります。コントロールを調整してください。ミキサーやアンプに直接接続する場合は、ヘッドフォンスイッチをオフにするのを忘れないでください。信号がクリップされる可能性があります。

本機のコントロールは緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の効果を求める場合にも、すべてを最大に設定する必要はありません。例えばサウンドを明るくしたい時は、HI を上げるのではなく、LOW を下げてみてください。

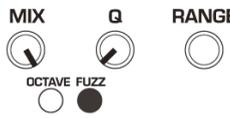
- ◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールは異常に敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。
- ◆ 演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。その他エフェクトを使用する際は一般的な使用方法として、本機の前: フェイザー/バイブ、オーバードライブ、ワウ等
本機の後: ディレイ、EQ、フランジャー、フェイザー (後もおすすめです)、ピッチシフター、リバーブ等
をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。
- ◆ バッファードバイパスは、「トゥルーバイパス」のポップとクリック、および複数のペダルを接続したときの高音痩せなどの欠点や、スイッチング回路や長いケーブルによる信号のロスや軽減します。

OCTA REFERENCE

ON (IN) ● OFF (OUT) ○

FUZZ

MIX **Q** RANGE = Tone Control



OCTAVE FUZZ

OCTAVE

MIX **Q** RANGE = Tone Control



OCTAVE FUZZ

FUZZ & OCTAVE

MIX **Q** RANGE = Tone Control



OCTAVE FUZZ

FILTERED FUZZ

MIX **Q** RANGE = Sensitivity



OCTAVE FUZZ

FILTERED OCTAVE

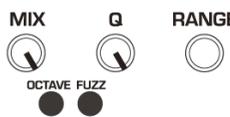
MIX **Q** RANGE = Sensitivity



OCTAVE FUZZ

FILTERED FUZZ & OCTAVE

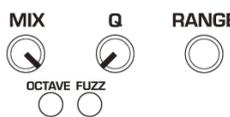
MIX **Q** RANGE = Sensitivity



OCTAVE FUZZ

FIXED FILTER

MIX **Q** RANGE = Cut-Off Frequency



OCTAVE FUZZ

ENVELOPE FILTER

MIX **Q** RANGE = Sensitivity Range



OCTAVE FUZZ